

急務の新エネルギー開発

----- 原発回帰は危険な道 -----

アメリカで最近新たに原発2基の建設が申請された。今後もさらに増える気配である。これは、1979年のスリーマイル島原発事故以来28年間続いてきたアメリカにおける新規原発建設中止の流れを破るもので、世界に大きな影響を与えよう。経済成長が続くインドや中国でも原発建設は計画されている。すでに多くの人々が指摘してきたように、これは世界のエネルギー需要増大と石油資源枯渇を目前に控えた新たな展開の始まりである。しかし、原発に活路を求めるのは危険な賭けである。チェルノブイリの再現は絶対避けなければならないし、子孫につけを残すだけの放射性廃棄物は将来にわたって世界を脅かすだろう。

● 日本が原発で稼ぐ国に

浜岡原発や福島原発、柏崎・刈羽原発など日本で沸騰水型（BWR）の原発を作ってきた東芝は2006年、アメリカの加圧水型原発（PWR）最大手のウエスチングハウス社を買収し、世界最大の原発メーカーになった。同社だけでBWRもPWRも建設できるわけで、今アメリカで計画されている原発は東芝が受注する予定である。東芝は中国やインドでの原発建設にも意欲を示しており、日本は「原発で稼ぐ国」になった。チェルノブイリ事故でヨーロッパ諸国は原発の段階的廃止を打ち出してきたが、エネルギー危機を機に世界は原発に復帰すると読んだの方針転換である。しかし、これは大きな賭けである。チェルノブイリ級の事故は今後絶対に起こらない保証はない。一度起こればおしまいである。加えて、世界のウラン資源は石油とほぼ同じ寿命で、いずれは枯渇する。残るのは放射性廃棄物だけである。こうした刹那的なエネルギー政策は世界の未来を危うくする以外の何ものでもない。

● 電気自動車はエコロジカル？

最近、アメリカでは家庭の電源から充電できる電気自動車がエコロジカルだ、として利用者が増えているという。日本でも早晚登場するだろう。しかし、これは大きな間違いである。家庭の電気は発電所から送られてくる。発電所では石炭や石油、天然ガス、原発、水力などで発電している。この中、火力発電では燃料に含まれ

るエネルギーの40%しか電気にならず、残りは大気中や海に熱として捨てられている。原発は火力よりも効率が悪く、ウランのエネルギーの30%しか利用できない。こうして、電気自動車が増えれば増えるほど、炭酸ガスの排出量は増えて地球温暖化は進み、原発のニーズが高まることになる。皮肉なことにガソリン車のほうが電気自動車よりエコロジカルである。

● 食糧とエネルギーの争奪戦

最近はまだ、炭酸ガス収支がゼロだとして、バイオエネルギーが脚光を浴びている。アメリカではトウモロコシからガソリンに添加するバイオエタノールをとるために、大豆農家がトウモロコシに転換したり、他の食用や飼料用穀物がバイオエタノール用に買い取られて品薄になり、価格高騰が続いている。アメリカに穀物を大きく依存する日本でも砂糖や様々な食品の値上げが始まった。一方でアフリカなどでは食糧危機が絶えない。「エコカー」は途上国の人々の命を奪いながら走っている。先進国の需要抑制と連動しなければ、どのようなエコロジカルな取り組みも自己満足でしかない。

● 持続可能なエネルギーの開発に転換を

食糧と競合しないバイオエネルギーを含む、あらゆる持続可能なエネルギーの開発と社会への定着が急務である。この分野で日本は圧倒的にたち遅れており、化石燃料依存から一刻も早く脱却しなければならない。（河田）